



平成16年度後期生徒会長 栗野 光晴 (79回)

先輩から後輩へ 3年という短い高校生活、10年ほど経った今でも忘れられない思い出がたくさんあります。今回この記事を書くにあたり、高校生活を思い返すと、その思い出の一つ一つに、共に過ごした友人の顔が思い浮かびます。クラスメイトと毎日昼休みにバスケットボールを浴びたことや、千南祭にむけて遅くまで学校に残って準備していたこと、当時の生徒会長として様々なイベントの企画運営に携わってこられたこと等は、今でも話に上るほどです。喜怒哀楽を共有できる仲間が存在し、高校時代に得られた最も大きなものだと感じております。

さて、皆さんも大学生になると、学校生活だけでなくアルバイトやサークル、ボランティアなどを通して社会人の方々とお会いする場面も増えてくるかと思えます。いろいろな場所で、いろいろな年代の方々とお話しなくてはならないときもあるでしょう。高校生活のように与えられたクラスがあり、その中で一つのコミュニティが形成され、自分自身がそこに溶け込むというシステムではなく、自分が動かなければ人間関係を形成することはできません。自らが選択し、社会の中に存在する何らかのコミュニティに対してアクションを起こしていくことで、社会と関わっていくことができるのです。

このように、コミュニケーションの場が拡大することによって、皆さんにはいわゆる『コミュニケーション力』が求められる。コミュニケーション力とはざっくり言うところ「他者とうまくやる力」です。ただ話すことが上手いというだけではありません。話を聴くこと、他人を思いやること、すべてがコミュニケーションです。今後社会に出るまでの間、皆さんはこの能力を開発していくこととなるのです。

とはいえ、コミュニケーション力は座学では身に付きません。自己啓発本を読んで身につけるものではありません。日常における様々な人間関係を構築していく中から自発的に身につけていくものです。何も難しいことをしるというのではなく、日々の友人や先生方との会話でさえも、皆さんのコミュニケーション力を育てていく根源となっているのです。

昔から一期一会とよくいいますが、出会っただけでは意味がありません。コミュニケーションをとって初めてそれが繋がりと成るのです。今後発展していくのであるコミュニケーションの輪の礎として、既存のコミュニティである現在の高校生活というものを大切にしてみてくださいはいかがでしょうか。

先輩 往復書簡 後輩



平成25年度前期生徒会長 2年 池田 友希

高校生活は、3年間という時間の短さに比べてその内容はとても濃いものだと感じています。東高へ入学して以来感じ続けています。毎日の忙しさの中で、ともすれば自分を見つめる余裕もないままに過ぎてしまいます。そうした中で、そこでいままやっておくべきこと、やらなければ後悔してしまうことなどわたしたちが気づくことのできないことについて、たくさん先輩方が助言をくださることに感謝いたします。

高校生活の仲間は、わたしたちにとってかけがえのない宝物です。勉強や部活動の大変さも、行事の楽しさも、すべてを仲間と共有しています。仲間と協力して何かを成し遂げることの大切さを感じながら毎日を過ごしています。

現在の高校生ほとんどが携帯電話やスマートフォンを持ち、これらを介してより簡単に不特定多数の人たちとコミュニケーションを取ることができる環境にありますが、反面、目と目を合わせて会話をすることや、大勢の人の前で話をするに慣れていない人が増えていると思います。友人とのコミュニケーションも、面と向かって話さずできてしまうため、相手がどんな気持ちでいるのかをケータイの画面からしか推測できなくなってしまう、却って意思疎通を困難なものにしてしまっています。また、物事の善悪をきちんと判断できないまま、ネットで安易な発言をしてしまう人もいます。このような状態の社会がはたしてよいといえるのでしょうか。

ケータイのコミュニケーションだけでは体験できない、実際の高校生活の中でなければ学べないことがたくさんあるはず。今、本当に必要なこと、やるべきことは何なのかももう一度見つめなおし、仲間と努力することがわたしたちにとって重要です。深い絆を大切にして、高校生活を充実させたいと思います。

現在の東高は、先輩方が在学していた頃と比べ、時代とともに変化しているところもあると思いますが、変わらずに引き継がれている伝統も多くあります。先輩方から引き継いだ「至誠一貫」の精神を守り、受け継ぐことがわたしたちの使命だと思っています。 藤枝東高校が皆さんの誇りとなるように頑張りたいと思います。

「駅馬」に導かれた半生？



フリージャーナリスト (フランス在住) 柴田 久仁夫 (47回)

古い類いはいまあまり信じないのですが、今から40年以上前の東高在学中、何かの拍子に易者に見てもらったことがありまして、その一言「駅馬(えきま)」の相が出ておる」というのです。「生まれつきの旅行好き。ア、所にとどまらず、あちこちを動き回る人生になるであらう」と。 当時の僕は生まれ故郷の島田市以外で暮らしたことがなく、中学の修学旅行で京都大阪に行ったのが、人生最大の長距離旅行という内向き人間でした。当然、この古い信は信じられず、しかし「駅馬」といふことが旅情を誘う言葉だけは、印象に残ったことを覚えております。

その後、学生時代の4年間を東京で過ごし、新聞記者になってからは徳島と岡山を2年ずつ転々、18歳までの定住生活がソツミだと思っていたら、25歳で職を辞して、フランスへと飛びこに決まりました。パリでじつじつ腰を据えて勉強し直すつもりが、1年後には日本のT.V.プロダクションに再就職、ディレクターとして担当の生活が始まりました。当時は、海外取材番組走りの頃、40代以上の方なら「記憶力もありませんが、世界まわるとH.O.W.M.A.C.」とか「わくわく動物ランド」の「ニューステーション」などという番組のルポを

Anytime, Anywhere

静岡大学情報学部 准教授 宮崎 佳典 (62回)

まずは地球の裏側がどんなには！ 米国ノースカロライナ州内のアパートより、ウキウキしながらこの原稿を書いています。どうやら重力や熱力学の法則とは違いますが、距離の二乗に愛称は反比例しないようです。今回このように機会を頂戴したことに対し、同窓会会長様を始め、事務局の皆様心より感謝申し上げます。同窓会誌は母校の源泉です！ 僕は平成元年の卒業です。元号が変わるといふ激動の年でした。あれから四半世紀(厳密には24年)が経過しており、月日の重みを常に意識し、それに東高生であったことを常に意識し、誇りに感じ、藤色には特別な反応を示します。今でも部活(地学部)での校内合宿で夜の天体観測会@屋上、夜中のトランプ会@教室、フナリに早朝のサッカー大会@グラウンドの心地よい記憶は、時間を凌駕した誠実な関わりはならないのです。高校時代、今更ながらにやっばり青春です。甘ずっぱい。現在静岡大学情報学部勤務ですが、卒業生の授業の自己紹介時について、藤枝東高卒の人は？と自問自答してしまっています。僕は数字の講義を主に担当していますが、その基礎は東高で鍛えられ、学芸発表や大学間交渉の海外出張に必要な英語力も東高時代、構文150の丸暗記、懐かしいの賜物です。 いま、静岡大学の教員長期研修制度でノースカロライナ州立大学の客員研究員を務めています。家族総力出でこちらに来て、研究以外(もちろん主体は研究です)にも学芸なども多々あります。その経験を、(特に現役生の)みなさんにお伝え

したいことがあります。昔前と比べれば増えましたが、まだまだ日本には外国人が少なくないです。それに比べ、日本ではあるものの呼吸が、沈黙は金などの文化がありません。それはそれで素晴らしい、でも異文化環境では話は一変します。説明能力もかなり高いです。僕も、人をは負けたら、明日を背負って生きてゆかなくてはなりません。 だから、皆さん、何度負けても構いません。一度たりともくじけてはなりません。 最近では静岡での仕事も増え、清水エスパスのミュージカルをプロデュースしたり、SBSラジオの看板番組「ロウラス」の金曜パーソナリティを毎週やっています。が、しかし、敗者です。確かにやりたいことだけやってなんでも生活できています。しかし、それで夢を叶えたとは思いません。僕はまだ武道演劇公演も実現できていません。夢なんて全く勝ち目がない開いたのです。 藤枝東出身人間と思いがちです。自分が出来る人間と思いがちです。負けるといふ言葉は、既に負けたのに認めない傾向が強いでしょう。僕もそうです。でも、事実は負けの連続。誰かが敗北スライダルの中を彷徨っていったら、僕をなんともかきやめり。明日を背負って生きてゆかなくてはなりません。 だから、皆さん、何度負けても構いません。一度たりともくじけてはなりません。

忘れ得ぬ師 随想



林叟院住職 曹洞宗師家 鈴木 包一 (31回)

人は師ありてこそ、その人となる。思えば多くの師に出会わせてもらって来た。高校生の時は学業よりも部活の方が重点的であった。中学生の頃吉川英治の宮本武蔵に惹かれ、全十巻をくり返し読み耽った。すつかに「剣」に染まるとは私は夜は木刀を抱えて寝る程であった。寺に住職である父は「お前、武蔵になるのか」と私に言った。心底武蔵のようになりたかった。

辛うじて東高へ入学が出来、そして憧れの剣道部へ「大部」出来た。主将の小宮山卓馬先輩から「鈴木君、君は何で剣道部へ入ったんだ」といわれ、即座に「武蔵を読んだ」と答えると、「熱血漢だな」と云われた。うれしくもさよぼい思っていたが、やる気が湧いて来るひと思いであった。放課後の稽古は厳しく、当然へとへとになり、帰りに食べた森本のコッパはうまくいった。特に思い出すのは、市内各所から剣士の先生方が防具、竹刀を担いで私達の指導訓練にやってくられたことである。先生方は今指を折ってみると、10を越える方方で、高段者は七段一段から四、五段まで壮々たる面々であった。この方々が代わる代わるやって来ては稽古をつけて下さった。昔、古来から未来へつなげる剣の道をやよく愛し、我々若者に無償の愛情を注いでくれた心の厚い人々であった。剣の厳

レッツ全肯定ライフ!

ロックスター有有限会社 取締役 コンドルズ プロデューサー ストライク ボーカル 勝山 康晴 (62回)

ろ。私も40歳になろうとする息子を見る度に、私は何も教えないで来たなあと心からそう思う。世の師匠に感謝するのみである。武蔵は云々。 「吾れ以外すべてこれ吾が師」と。 何度負けても構いません。 人を勝たせてあげれば、ゆりかごから結婚し、幸せな家庭を築いた人がどれほどいますか。ほほいませ。人は初恋以降、浮気も不倫も含め、色んな恋を繰り返しますが、所詮それは全て、初恋に敗れた者同士。恋愛愛者復活戦なのです。 進学就職も厳しです。第一希望の大学に入れた人がいかに少ないですか？ 皆さん、正直に考えて、東京、京都、早稲田、慶応あたりに行きたかったんじゃないでしょうか。そしてさらに、第二希望の会社も、第一希望の部署に入り、満足な給与を得る人となる、もはやこの第三希望の希少種レベルです。ほんと、人生は敗北に溢れています。 かく言う僕は今、コンドルズというダンス集団のプロデューサー兼演出者として国内をツアーしつづつ、ストライクというロックバンドもやっています。一時期メジャーデビューもしました。まあまあ人気を掴み、今現在も東京を拠点に活動して

います。最近では静岡での仕事も増え、清水エスパスのミュージカルをプロデュースしたり、SBSラジオの看板番組「ロウラス」の金曜パーソナリティを毎週やっています。が、しかし、敗者です。確かにやりたいことだけやってなんでも生活できています。しかし、それで夢を叶えたとは思いません。僕はまだ武道演劇公演も実現できていません。夢なんて全く勝ち目がない開いたのです。 藤枝東出身人間と思いがちです。自分が出来る人間と思いがちです。負けるといふ言葉は、既に負けたのに認めない傾向が強いでしょう。僕もそうです。でも、事実は負けの連続。誰かが敗北スライダルの中を彷徨っていったら、僕をなんともかきやめり。明日を背負って生きてゆかなくてはなりません。 だから、皆さん、何度負けても構いません。一度たりともくじけてはなりません。

恩師を訪ねて

鈴木 貞良先生 (41回)

昭和53年4月~平成2年3月、平成20年4月~平成22年3月在職

「我々のころと比べると、洗練されている」と、生徒全体に誇り気味の違いを実感したという。まさに10年後の53年、数学、球技大会や文化祭を生徒自ら運営していく

姿から、自主性が育てられていることを痛感した。 金谷中出身。中学時代は柔道に打ち込み、東高でも柔道部の門をたたいたところ、が、絞め技に不慣れ、左腕関節を痛めたこともあって、1年で退部した。「だから、高校時代の部活には負い目を感じている」と苦笑する。 赴任8年目の58年、担任した1年生のクラスに一人のサッカー部員がいた。後の日本代表、ゴンゴ中山選手(現・サッポロサッカー解説者、59回生)である。また、Jリーグ誕生前で、日本サッカーの頂点は日本リーグ(Jリーグ)。「僕は大学に入学して日本リーグを目指す。担任として初めて面談した時中山選手はこう明言したという。アラスでは異質の存在。しかし、サッカーという明確な目標を持ち、クラスの仲間たちにはいい刺激を与えていた」と振り返り、この経験が踏まえ、異質なキヤラクターを持つ生徒の必要性を強調する。 その中山選手が主将を務めた60年から、榛原高に転出した。その後、2年3月まで5年間、サッカー部長を務めた。この間、台頭してきた清水勢の後じんを押し続けた。だが、結果は伴わず、も、グラウンドの周りは常に人で埋まり、ピッチの選手たちには熱い視線が注がれた。「部長として全国舞台は踏めたこと。けれど、サッカーが地域に関わること、東高のサッカーが地域

落第生のレール

作家 大石 直紀 (50回)

東高では落ちこぼれた。 それも徐々にとぼれ落ちたのではない。入学して間もなく、一気に転落した。 当時、新人には、まだ入学前だというのに、数学の問題集が渡された。確かに「春休みの間に自分のできるところまでやっておいでください」というような但し書き(?)ががついていたように思う。 そして、入学後初めての授業。数学の教師は、なんとはとりず、何ページまで問題を解いたか自己申告させたのである。皆の申告を聞いて驚いた。一問も手をつけていなかったのは私を含めて二人だけ。 何度負けても構いません。 人を勝たせてあげれば、ゆりかごから結婚し、幸せな家庭を築いた人がどれほどいますか。ほほいませ。人は初恋以降、浮気も不倫も含め、色んな恋を繰り返しますが、所詮それは全て、初恋に敗れた者同士。恋愛愛者復活戦なのです。 進学就職も厳しです。第一希望の大学に入れた人がいかに少ないですか？ 皆さん、正直に考えて、東京、京都、早稲田、慶応あたりに行きたかったんじゃないでしょうか。そしてさらに、第二希望の会社も、第一希望の部署に入り、満足な給与を得る人となる、もはやこの第三希望の希少種レベルです。ほんと、人生は敗北に溢れています。 かく言う僕は今、コンドルズというダンス集団のプロデューサー兼演出者として国内をツアーしつづつ、ストライクというロックバンドもやっています。一時期メジャーデビューもしました。まあまあ人気を掴み、今現在も東京を拠点に活動して